

「校歌」の願い

校歌は、詩人 吉野 弘 氏（旧琢成第二小学校出身）による作詞
新潟大学教授 高山 菊司 氏（旧琢成尋常高等小学校出身）による作曲

昭和 51 年（1976 年）2 月 25 日に発表された。

作詞された詩人 吉野 弘 氏は、歌詞に込めた願いを、当時の新琢成小学校
初代校長 斎藤 晴記 先生に手紙で次のように語っている。（抄録）

当初、鳥海山や最上川などの風土性にかかわりのないものを考えていたのですが、だんだん時間がたってみると、これはとうてい省くことのできない大きな要素であることが判ってまいりました。しかし、この要素を從前に歌われていない感じ方で扱うといふことは、予想外に困難で、それにてこずった次第です。小川会長さんからの頻繁な催促にもかかわらず、遅くなりましたのは、こういうわけでございます。

一は、山の頂きよりも山裾の大きさに関心を抱かせようという意図。

二は、最上川が単純な1本の川ではなくて、たくさんの支流が合流したものであることの暗示。

三は、困難に対する反覆チャレンジを、海のうねりに見てたもの。

それから、ややこじつけの観もあるやもしれませんが、一は英知、二は情操、三は健康及び鍛錬という含みを持っています。

琢成小学校 校歌

高山 菊司

鳥海山の頂きは
広いふもとに支えられている
わたしたち
かしこい知恵のふもとを築く
琢成のともだち

最上川の豊かさは
小さな流れの大きな集まり
わたしたち
声かけあって未来をめざす
琢成のともだち

日本海の大浪は
繰り返し起き上がる心のかたち
わたしたち
心と身体を日々にきたえる
琢成のともだち

〔明るく行進曲風にリズムをはっきりと〕

The musical score is handwritten on four staves of a 4/4 time signature. The key signature is A major (two sharps). The vocal line consists of eighth and sixteenth notes. There are several lyrics written below the notes, with some parts in parentheses indicating performance instructions like '歌うむじに歌うむじに' (sing with me, sing with me) and dynamics like 'f' (fortissimo) and 'cresc.' (crescendo). The lyrics correspond to the poem on the previous page.

